

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	437101661
法人名	医療法人 日隈会
事業所名	グループホーム 悠々居
訪問調査日	平成 20 年 3 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 18 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	437101661
法人名	医療法人 日隈会
事業所名	グループホーム 悠々居
所在地	熊本市萩原町 9-45 (電話) 096-378-8818

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	4月18日

【情報提供票より】(20年2月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 11

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建て 1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	36,000円	有りの場合 償却の有無	退去時に返金	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	食材料費に含む 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	9 名	要介護2	8 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.77 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東病院 八王寺町クリニック 宮崎耳鼻咽喉科 浮池歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院や支援センター、小規模多機能ホームや高齢者専用住宅等が隣接したホームは、医療・看護・介護全ての面で安心した生活を送る事ができる環境であり、職員間の交流や研修体制も確立し、医療との連携や職員の日々の健康管理により、高齢化が進んだ中で、ゆっくりとした生活を支えている。ホーム内は職員の特技が活かされ、季節感や明るい雰囲気を出し、ADLの低下に伴いバリアフリーの徹底した中にも改善を図っており、安全性を高めている。自己重要感がみなぎった生活を支援したいと入居者のできることを中心に入居者・職員が一緒になって何事も取組まれており、ゆっくりとした時間の中にも充実した生活が営まれている。管理者、職員間の信頼関係も厚く、チームケアや質の高いケアが実践されている。今後更なる発展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義や活用方法等明確に認識し、環境整備やケアの向上、職員の励みと捉えている。前回の評価結果も全職員で共有し、内容を検討し具体的な改善が図られている。外部評価だけでなく毎月法人全体の業務改善委員会に改善事項を提出し検討されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニットで話し合い、3人のケアプラン担当で検討し、まとめ上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今までに2回の運営推進会議では会議主旨や内容の説明、入居者の現状報告等がなされている。市の担当者にも出席の依頼をされているが出席に至っていない。今後は参加メンバーの輪を広げ、同法人内の小規模多機能ホームと連携して取り組む意向である。運営推進会議の定例化と行政等多方面からの出席により、有意義な会議となり、意見や要望等についても出やすいように事前に議題を決め案内する等積極的な働きかけを望みたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との関係は良好であり定期的な連絡が行われ、運営推進会議後に茶話会を開き各ユニットで意見交換会を開催している。玄関裏意見箱の他、グループホームの苦情担当者を明記し、外部の公的苦情申立場所も掲示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会や様々な地域行事に参加し、年末の餅つきは老人会・自治会とで行われるなど地域住民との交流を深めている。近くの保育園との相互交流や老人会では公民館の掃除やぞうきん縫い等に入居者とともに参加する等地域の一員として活動している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“和を心がける”他3項目の理念は入居者の視点に立ったものとなっている。家庭的な雰囲気の中で安心した生活を支援しており、地域密着型サービスとして、地域との関係強化も図られている。今後は地域との関わり方等を理念に盛り込む意向である。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申送り時の唱和や名札の裏に記載し意識付けをしている。玄関や各ユニット、裏玄関には特に訪問者への啓発として大きく掲示している。理念の他、ケア方針4項目に添った支援であるかを振り返りながら、職員が共通認識のもと、その実践に真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や様々な地域行事に参加し、年末の餅つきは老人会・自治会とで行われるなど地域住民との交流を深めている。近くの保育園との相互交流や老人会では公民館の掃除やぞうきん縫い等に入居者とともに参加する等地域の一員として活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や活用方法等明確に認識し、環境整備やケアの向上、職員の励みと捉えている。前回の評価結果も全職員で共有し、内容を検討し具体的な改善が図られている。今回の自己評価は各ユニットで話し合い、3人のケアプラン担当で検討している。又、外部評価だけでなく毎月法人全体の業務改善委員会に改善事項を提出し検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は会議主旨や内容の説明、入居者の現状報告等を行い、茶話会や認知症についての院長の講和も取り入れ、認知症の理解を深める努力がなされている。市の担当者にも出席の依頼をされているが出席に至っていない。今後は参加メンバーの輪を広げ、同法人内の小規模多機能ホームと連携して取り組む意向である。	○	運営推進会議の定例化と行政等多方面からの出席により、有意義な会議となることを期待したい。意見や要望等についても出やすいように事前に議題を決め案内する等積極的な働きかけを望みたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回の実地指導や市主催の研修会に参加し、情報交換や質の向上を図っている。入居者の自宅の件での相談等行き来する関係を作り、生活保護受給者については行政担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態を説明し、遠方の家族や来訪問隔が空いた場合には随時電話による報告がされている。ホーム便りも入居者の日常を掲載し送付され家族の安心へ繋げている。定期的なイベントへの招待や6ヵ月毎のプラン説明時には詳しく説明がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族とのコミュニケーションを図り、苦情や意見を出しやすいようにと裏の出入りに意見箱を設置しているが苦情は出ていない。運営推進会議後の茶話会では各ユニットで話し合いを行い、意見等を収集し、ホーム運営に反映させている。グループホームの苦情担当者を明記し、外部の公的苦情申立場所も掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は入居者や家族との信頼関係を保つため、基本的には異動は行わないこととしており、大きな変化は無く安定している。やむをえず異動があった場合には新人職員と異動職員との引継ぎの徹底により早期に顔馴染みになるように努めている。管理者は離職を最小限に抑えるため職員とのコミュニケーションに心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の院内研修は年間スケジュールを組み毎月集合教育が行われ、ホームの職員も参加している。ホーム側も資料を作成しパネルディスカッションをしている。外部研修には積極的に参加し、レポートを作成し研修報告会を開いている。運営者は資格取得を推奨しており、意欲向上が図られている。又個人評価表を基に意見交換を行い、職員個々のスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し交流促進に繋げ、研修会に参加し、情報交換や問題点を見出しお互いにアドバイスしあう等質の向上に努めている。他のグループホームとの相互交流など連携して取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して入居していただくため家族と共に事前に訪問し一緒に過ごしてもらい、職員との信頼関係を築くよう配慮している。入居当初は家族の頻繁な訪問による協力やコミュニケーションを図り、職員とゆっくと過ごすことで徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は自己重要感がみなぎった生活を心がけており、雑談の中に回想法を取り入れたり、手伝ってもらったことへの感謝の言葉をかけ、お互い励ましあいながら意識向上を図り、職員の見守りと傾聴により入居者との信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴・趣味・嗜好調査等詳細なアセスメントにより情報を把握しユニット毎で話し合い支援方法の共有化を図っている。意思表示が明確でない場合は表情やしぐさ等から察知し、帰宅願望時はカラオケや音楽鑑賞により落ち着かせるようにと支援している。どんな状態でも本人の満足感と穏やかな生活を念頭に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人・家族の意向、ADLに沿って心身状況把握に努め、1～2週間の観察の結果、全職員でのカンファレンスにより立案している。家族の訪問時や随時連絡を取り意向を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には半年に1回は見直しされている。職員はケア計画と入居者の現状を常にチェックし、月1回プランに沿って評価している。個人日報に変化や状況を記載し、それを基としたカンファレンスや入院・転倒等カンファレンスを開き、現状に即した計画を作成している。家族にも新たなプランを説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は家族対応となっているが、家族の要望に応じて通院介護や個別外出等支援している。健康管理や状況観察に努め、夜間は2時間毎の巡視体制を組む等ソフト面での支援や状態異常時には昼夜問わず母体医師や看護師の支援を受ける等連携して取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前認知症専門である母体病院で受診し主治医を決め、2週間に1回の診察となっている。外科や整形等の専門的な治療については主治医からの紹介により適切な治療を受けられるよう支援し、職員が同行し情報の共通化を図っている。母体病院が隣接しており、理事長や主治医が訪問し状況把握に努めている。歯の治療は訪問や逆に歯科からの迎えでの対応となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアへの取り組みの経験は無い。いざという時に指針は備えられているが、隣の病院への転院できることが家族に安心に繋がっている。法人全体としてターミナルケア取り入れる方針で動かれており、徐々に職員の確保や体制を整備する意向である。	○	ターミナルケアの必要性を認識されており、家族と終末期については早い段階から繰り返し話し合い、ケア体制を確立される事を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者個々とのコミュニケーションに努め、個々の性格を把握し、傾聴の姿や手びき、優しい声かけ等や排泄や入浴時の声かけや対応方法等入居者個々の尊厳やプライバシーに配慮されていることが窺われる。職員は個人情報保護法の研修を行い、記録(トラブルや問題行動)時は実名を出さず“他者”記載している。家族からも個人情報の使用同意書を受け入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応のスケジュールはあるが、入居者個々のペースを把握し、その日の会話や状態から見極め、本人の意思を尊重して穏やかな日常となるよう支援している。訪問時も食事に時間を要する入居者も見守りと声かけで本人のペースに沿った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや入居者のできることを中心に手伝ってもらいながら調理している。献立は入居者の要望を取り入れながら、各ユニットが持ち回りで作成し、掲示している。1日には小豆ご飯としたり、花見弁当やクリスマスにはチキンのテイクアウト等を取り入れている。入居者の発せられた「笑って食べたい。せっかく美味しい物を食べても消化せん。どうせ生まれた以上楽しまんといかん。」と言われたように入居者と職員皆での楽しい食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望があれば毎日入浴できる体制をとっている。入浴チェック表を使い間隔が空かないよう気を配り、ゆっくりと入浴が楽しめるよう1対1での入浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や能力に応じて、自然に得意分野を発揮出来るよう支援し、毎朝の掃除、ぞうきんがけ、調理等が職員と共に行われている。季節に応じた外出支援やホーム内での楽しみごとはホーム便りや写真の掲示より多様に用意されていることが窺われる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材の買出し同行や母体病院の運動場等天候や季節に応じ戸外に出るよう支援している。家族も車椅子で散歩されたりと協力的である。	○	日常的な外出が頻繁に行われるよう、地域ボランティア等の検討も考えられており、家族の協力支援やボランティアの受け入れ体制を確立され、更に出かける機会が増える事を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠での弊害は十分認識されているが、交通量による危険性や入居者の状態により玄関を施錠している事もある。家族には説明し了解を得ている。離床時の対応手順マニュアルも作成し、帰宅願望の強い時には、一緒に寄り添い、落ち着かれるよう支援している。	○	鍵の無いケアの実践に向け、各フロアの協力体制に今後も取組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼・夜間を想定した防災訓練が行われている。日常的には防災委員を決め、防火対象物点検表によりチェックを行い、各ユニットに非常持出袋を用意している。又母体病院の訓練へ参加しているが、地域の協力は今のところ得ていない。	○	運営推進会議を通して地域の協力体制の強化を図る意向であり、先ずは見学や二次的な見守りの協力等が得られることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じて食事量を記録し、食材によって細かくカットしたり、味付けを変更する等工夫している。水分は自ら訴えられる事はないようで、職員が毎食、10時、3時や入浴後お茶・ヨーグルト・ヤクルト・コーヒー牛乳等個々の好みを勧め、毎月の体重を野線化し、健康管理に繋げている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には職員の特技を活かしタペストリーが飾られ、明るい雰囲気や季節感を出している。1FユニットはADLの低下や状況に応じレイアウトを変更し、入居者がより安全に生活できる様工夫している。光対策も万全であり、換気対策や温度調整も入居者にとっての適温を常に検討し、心地良く過ごすよう配慮している。ホームの横や玄関先には季節の花や野菜が植えられ、室内に花を飾ったりと季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の高齢化や重度化に伴い畳ベッドと介護ベッドが使い分けられた居室は転倒防止に整理整頓され、テレビや遺影、キーボード等が家族の協力を得て持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠々居
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市萩原町9-45
記入者名 (管理者)	西田 佳子
記入日	平成20年 2月24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスの理念は出来ていないが現在までに1回目認知症の勉強会と入居者の生活の説明2回目餅つきを行いコミュニケーションを図っています。	○	地域密着サービスの理念は出来ていない。今後は地域の方々との関わりが入居者、施設、職員もふえてるので早急に立案し理念を共有化する事で地域の方々とのより良い関係を図っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、理念を唱和し理念の意識付けを行っている。職員の名札の裏、室内3ヶ所に理念を掲示しており常に理念に沿ったケアの浸透を図っています。スタッフの心構え「原則」も心構えの一つとなっております。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者、御家族、地域の方の目のつく所に理念を掲示し入居の際、運営推進連絡会議の際に説明を行っています。	○	理念の浸透までは至っていないので今後も運営推進連絡会議の、行事の際内容によっては説明を繰り返し行っていく様にする。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方達との挨拶は気を配り必ず行うようにしています。最近はお互い気軽に声かけをすることも多くなっておりいます。施設の外観も季節に応じた花を植え替え明るく開放的な家庭的な環境づくりを心がけています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や地域の行事等の参加は職員も同行し親交を深めている。二年前より近くの保育園より豆まき参加のご招待があり参加しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流の際や運営推進会議にて認知症や介護についての質問が必ずあります。その際には専門的な立場から説明や対応策を話すことがあります。	○	実際に一人暮らしで困っている高齢者や介護面で困っているご家族も地域の中には沢山おられると思います。地域の方との親交を通してその様な方々へ専門的な支援も行っていければと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者より評価を受けることは日常の介護に慣れを感じることなく、どの様にケアや環境整備を行えば入居者の方々が安心して暮らせるか等を考える質の向上につながっていると励みになっているので外部評価の改善点の指摘には直ぐに取り組み改善しております。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流会において地域の皆様に関係することや利用者やサービスのことは十分に話しています。評価を行っているという説明はしていますが詳しい内容はこれからです。まだ数回しか行っておらず意見より質問のほうが多いです。	○	現在二回しか運営推進会議を行っておらず今後は二ヶ月に一回は必ず定期的に行いその中で評価への取り組みについても詳しく説明も行っていきます。徐々に意見も出てくると思いますのでその時は意見を生かしてサービスの向上に努めます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂く様お願いいたしております。年一回の実地指導にての意見改善点は質の向上につながっています。又、市が行います研修会には必ず参加するようにしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内での研修で専門の先生をお招きして勉強会を行っております。その際には出来る限り多数の職員が参加するよう努めています。	○	今後法令で改善点等の新しい情報を速やかに取り入れ入居者の関係者にお伝えしていくよう勉強していきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内や外部研修において虐待についての研修は多く有りますので多数参加し理解できるよう徹底しております。施設内でも各フロアで話し合い入居者の状況、状態にあった介護を行うよう共有化しております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の祭は契約書と重要事項説明書を読み上げ納得して契約を行って頂いております。又その祭に疑問点などをお尋ねし不安なく入居して頂く様心がけております。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の状態にて訴えがある場合は優先して話しを聞く様にして安心して生活が送れるよう対応しています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面接時にご家族へ状況や状態を説明するようにしています。又急ぎの場合は連絡を入れることもあります。都合にて来られないご家族へも定期的にイベントの案内をし半年に一度は計画書の説明を致しますのでそのとき詳しく話すようにしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>担当職員を明確にし何処でも対応するようにしています。意見箱の設置もありご利用していただけるよう説明しております。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度、運営会議業務改善委員会があり各部署にて意見を持ち寄り良い方向に改善するよう院内全体で努めています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態に応じて職員の勤務は何処でも変更できます。又、緊急な場合でも連絡網を設けておりますので速やかに対応できるようにしています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者への配慮として出来る限り職員の異動が無いよう経営者、管理者が考えています。又やむをえず異動や退職にて施設を離れる場合でも残っている職員が対応し明るい環境づくりに努めるよう支援しています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>院内でも新人研修、助手研修その他研修が月に2～3回有り日々勉強しています。又、院外の研修も出来る限り沢山の職員が受講できるようしています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>院内で別部署での同業者を招いた研修ではGHもさんかしています。又、熊本市のGH連絡会議に参加して色々な意見を交換して交流を図っていると同時に施設の見学に訪れたり来られたりすることもあります。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各フロアで意見交換や話し合いの機会を設けストレスの原因を作らないようにしています。又、何時でも管理者に相談できるような環境でもあります。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人評価表を基にして本人、管理者及び経営者の意見交換を行い問題点の改善等に努めスキルアップを図っています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や入居時、本人の生活歴、趣味、嗜好調査などを尋ね施設での生活環境をどの様に整えたら安心して生活が送れるかをスタッフ間で話し合います。又入居後慣れられるまでは声かけに気を配りコミュニケーションを図りながら本人が望んで事など引き出す努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や入居時、ご家族の不安や心配などをお聞きし専門的立場にて説明や助言を行い安心されるよう支援しています。又、面会時や連絡を行った際、施設での状況や状態を話すようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を聞き満床にて入居が出来ない場合など院内施設の小規模多機能や支援センターの相談員に相談し対応に努めています。	○	有料老人ホームが3月に開設するので今以上に院内の他施設のスタッフや専門員との協力体制を築いていかなければと思います。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は会話を心がけ明るい雰囲気や環境を提供し信頼関係を築く様支援します。他者と一緒に過ごす時も職員も介入しコミュニケーション作りも支援しています。慣れられるまでご家族へ頻りに面接していただくよう協力をお願いしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や活動を励ましながら一緒に行くことで自己重要感を高めお礼の言葉をいい労事で意欲の向上を図っています。又、入居者の方から優しい言葉を頂くことも多く過剰な介護をせず出来ないところを支援し助け合って生活を営んでいると思います。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や心配事をお聞きし話しをすることで不安が軽減するよう支援しています。両親の状態や状況などを説明し対応に困ることの無いよう支援しています。時折活動や推進会議に参加して頂き一緒にコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には現状を説明し介護に戸惑いが無いよう支援しています。面会が少ないご家族への季節のセレモニーの連絡の祭は安心されるよう生活状況などを話すよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数人地元で生活を営まれた方は老人会の方が尋ねてこられたり老人会に入会し活動へも時折参加しているので徐々に他の入居者の方たちとも馴染みの関係が築けていると思います。	○	地元以外の方で馴染みの方が訪ねてこられることは殆ど無い。今後ご家族とも相談し支援の方法を考えていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員が参加できる活動を取り入れたり皆で会話をしたりと職員が介入し楽しい環境を作ることで孤立せずコミュニケーションが図れるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同施設間で転院されても必要であれば関わっていきたいと思います。又、転院される際も何時でも相談や遊びに来てくださいと話しています。	○	転院後私達も入居者や御家族の状況等心配です。今後はお手紙や連絡を取り関係を断ち切らない関係作りを検討する必要があると思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や状態を通して本人の希望、意向を把握するよう努め、その後職員でミーティングを行い、どの様に対処を行うと本人が満足し穏やかに生活が送れるか何時も念頭に置いています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時すべて尋ね又、情報提供書を読み把握に努めています。直ぐに職員全員印でミーティングを行い支援の方法等を考えその事を共有しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動や家事を一緒に行いコミュニケーションを図りながら状態を観察し現状を把握する様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立案する際、職員全員でケアカンファレンスを行い生活環境、住環境支援の仕方等について徹底して話し合います。御家族へは面会時や連絡を入れる等しケアに対する意向を尋ねています。	○	御家族とスケジュールの調整を計りケアカンファレンスから参加して頂ける様にする。又、他の専門職の意見を聞き、より良いケアが行える様に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態や状況が変化し異常があった場合は介護計画の見直しを御家族に話し新たに作成する様努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報、ホーム日誌に記入し介護計画の作成に活かしています。又、職員は必ず目を通し情報は共有化できています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調に異常があった場合は昼夜問わず母体の医師や看護師に連絡をし早急に対処出来る連携体制です。介護保険や手続きに関しても他職に相談できる環境です。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中での資源の協力体制は十分とは言えない入居者の生活環境を整え安心して地域の中で生活を行える様支援する。	○	今後、運営推進会議やセレモニー等に他職の地域の方をお招きし馴染みの関係を築き良い環境作りに協力して頂ける様働きかける。又、ボランティアの支援も健闘していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設内に在宅支援センターが有り、常に情報交換を行っている。又、市のグループホーム協議会へ入会し定期的に話し合いや講習会があり参加しここでも色々な情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向は状態から言って理解するのは難しい。必要性の点では、家族歴や生活歴にて計り知ることが出来るので十分とは言えないが話し合っている。	○	現在、院内研修で権利擁護についての研修を数回行い今後重要な事だと理解をしています。今後は地域包括支援センターとより連携を計り長期的なケアマネジメントについて話し合っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他科受診は御家族にご協力を頂いていますが場合によっては職員が同行し受診を行っています。歯の治療は来居にて行って頂く等、本人や御家族が安心し納得がいく様出来る限り意向に添っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>母体が認知症の専門医で2週間に一度診察を行っていますが、変化や異常があった場合、緊急に連絡を入れ対応の仕方を尋ねたり相談できたりと、その点では良い支援が行われていると思います。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>各階に一人ずつと他1名計4名の看護師を配置しており日勤、夜勤帯には出来る限り一人は在中する体制で何かあった場合相談し迅速に対処出来ます。又、母体の看護師との連携も取れています。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>月に一度外来会議があり支援の方法等相談し安心して過ごしていただく事が出来る様な体制です。又、何時でも迅速に対処できる連携が取れています。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>施設にて終末を迎えられた事はありませんが経営者、医師、管理者の経営方針としてターミナルを取り入れる方向で進んでいます。それに応じて職員の確保、体制を徐々に整えています。</p>	<p>○ 入居者の方が高齢化し身体面も重度化が進んでいます。今後は御家族と時折面談を行って終末期をどのような方向で迎えたいか医師を交えて繰り返し話し合いを行っていく必要性が有ると思います。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>身体面の低下に伴い医師と相談し環境の整備を行うなどし自力で行う意欲が低下しない様に努めています。ただ、より良く暮らして頂ける様支援するにはコスト面の問題もありチームで改善点の意見を出し合い提示していく様努めています。</p>	<p>○ 身体面で環境面、不具合を提示し入居者が暮らしやすい環境に改善していく努力をする。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居される際にはスタッフとミーティングを行い情報提供書を相手側にお渡ししています。身体、食事、排泄や病歴、生活歴、家族構成等対応に困られない様詳しく記入しています。又、何時でも連絡し尋ねて頂ける様こちら側も対処しています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方の性格を把握し場所をわきまえた対応を心がけています。記録などに記入する際も個人情報に配慮し「他者」と記入しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方のペースにあわせ、ゆっくりと落ち着いた態度で理解しやすい言葉を選び返答を促す様支援を行っている。又、表情や声のトーンにも気をつけています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が話しかけてきたり状況や状態を見極め第一に入居者の方たちを優先し考え行動する様共有化しています。一人一人のペースを把握し本人の意見を尊重し穏やかに生活が送れる様支援を行っています。	○ 新人の職員に介護理念や方針を十分に理解をしケアを行っていく様教育に努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば行きつけの美容院に行き希望の髪型にして頂いている。着る物は自分で選んで頂き毎朝整髪を行い、お化粧する事を促す等女性としての気持ちを尊重する様努めています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い物、準備後片づけなど一緒に行い励ましや労いの言葉掛けを行い自己重要感を満たす様心がけています。食事の中で好みを把握し献立の中に入れる様努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時嗜好調査を本人、御家族に行い調査票を活かして提供する様努め楽しく生活を送れる様支援を行っています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時の声掛けと誘導解除を行い入居者の方の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促しています。又、日中は布パンツに替え自力で排泄を行う行為を保てる様見守りや励ましにて意欲の向上を図っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴曜日時間は決まっているが本人の希望があれば毎日入浴が出来る。又、一人の入浴でゆっくりとリラックスして入浴を楽しむことが出来る。排泄にて汚れた時なども季節や希望によっては入浴を行う事が多々あります。	○	入浴の時間の希望には個人一人一人に合わせる事が難しいが出来れば希望にそえるよう支援が出来るのかを話し合っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の方の状況や状態を観察し必要に応じて休息をとる様声掛けを行っている。日中に活動や家事、雑談をするなどし夜穏やかに入眠出来る様支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の趣味出来ることを把握し協力して頂ける時は力を発揮して頂いている。季節に応じて行事や外出を施行し誕生日に誕生会を行い職員が楽しい雰囲気作りや明るい飾り付けを行い全員でカラオケや歌や踊りをしたりと楽しいセレモニーを提供しています。	○	行事やレクリエーションには御家族へ連絡を入れ参加をお願いしますが、参加者が少ないのが現状です。入居者の方の日常生活を把握して頂く為と喜びや楽しみに協力して頂ける様参加を呼びかけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理は難しくお金の価値の理解も乏しい(しまい込み、忘れてたりお金を持っていたことを忘れてたりされる又、他者にあげたりと危険な面があったため)	○	活動時お金の価値をみせて尋ねることが有るが解られないが興味もないが買い物時払って頂くなどし続けていこうと思う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数に限られており季節に応じて運動場や近くへ連れて行くのは可能だが都外となると入居者の方の身体も重度化しており残った職員への負担も大きいのでご協力して頂ける御家族へはお願いしています。	○	日常的となると難しいが全体で協力する体制や地域の方ボランティアの方の協力を検討する必要性が有ると思われる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて全体の職員が協力して外出したり地域のセレモニーに各階数名ずつ外出を行ったりはできるが個別や家族と共にその階だけの職員が抜けるのはNo61の理由も重なり難しい。	○	個別や家族と共に行える支援もNo61の内容も取り入れて話し合っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」「手紙を出したい」等を希望される場合は何時でも対応しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族、知人、友人、馴染みの人達の訪問は何時でも歓迎しておりゆっくと対話していただけるよう入居者の方達の部屋にはソファを置いており、お茶、お茶菓子等を出す様にしてあります。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内の研修や院外の研修には積極的に参加し身体拘束をしないケアの実践は職員全員の意識図家は徹底しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかけないケアを実践したいが入居者の方の状態によって危険性があると判断した場合はやむをえず時間を決め対応にて平穏を取り戻すまで施錠を行うことがあります。その事は御家族にも説明し了解を得ています。	○	ボランティアの協力、各階の協力をの仕方を検討し人員を確保し施錠を行わず対応できる様努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	朝夕の申し送りにて入居者の方の状況や状態を把握し見守りや観察を行っています。夜間は2時間毎巡視に廻り安全に生活が送れる様支援をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時に持ってこられ状態の変化にて危険と判断した時はまず本人と話して預かる様にしています。又、状態が戻り手元に戻すこともあります。その事は御家族へ説明を行い又、御家族へ預けることもあります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療安全に関しての院内、院外の勉強への参加や医療安全委員会があり知識の向上には取り組んでいます。離居時の対応マニュアルや緊急連絡網が作ってあります。防災訓練は春と秋年2回行います。事故防止迅速な対応がとれるよう努めています。又個人日報には本人の顔写真を張っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の訓練が勉強会の中に入っており全員が順番に参加しています。母体の医師に緊急時は連絡を入れ指示を仰ぎ迅速に対応出来ます。緊急対応マニュアル緊急連絡網を作成しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応は大切なことだと認識はしていますが地域の方達との交流が始まったばかりで働きかけはまだ出来ていません。	○	運営推進会議の中で災害対策、対応、協力体制を議題に取り入れ意見、提案を出して頂きマニュアル化していきたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の方の状態は常にスタッフ間で話し合い状態に応じての環境整備対応を行う等し安全に生活出来る様創意工夫を行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常や入浴時にチェックし毎日定時にバイタルチェックを行い顔色動作の異常が無いかを観察し個人日報、ホーム日誌に記録し速やかに医師に報告し指示を仰ぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報提供書が個人日報に綴じてあり何時でも確認出来る。服薬は職員が管理し自力で服用出来る方は手渡し服用後まで見守る。出来ない方は介助し錠剤を粉にして服用を行う事も有る。医師の指示通りに服薬を行いその後十分に観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日課に体操を取り入れ出来る家事を手伝って頂き体を動かす様支援しています。食事に繊維物を多く取り入れ水分摂取に注意し自然排便が行える様努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きは声かけ、誘導、介助にて行っています。歯磨きが上手く行えているか磨き残しは無いか見守りチェックを行う。就寝時は入れ歯の洗浄を行い口臭予防を行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者自身が食事の管理をする事は難しく体重が増加しない様職員側で食事量の調節を行っています。水分は自ら喉の渇きを訴える事がないのでお茶の時間を決め水分摂取を行う様に支援しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体の感染対策委員会が月一回有り出席し各階の状況状態を報告勉強会でも感染については多く必ず参加し知識の向上に努めています。予防法についての指導書を掲示し感染マニュアルが有ります。感染が流行する以外でも日々殺菌、消毒を行い予防に努めています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日の食材はその日に買い新鮮さを大事にしています。食中毒の予防は夜勤者が毎晩まな板、ふきん、湯飲み、ハブラシ、コップ等を次亜塩素酸と熱湯にて殺菌、消毒を行っています。食器類も食器乾燥機で長時間乾燥を行います。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表の門扉は何時も開放してあります。玄関周り、花壇は季節に応じて花を植えたり飾ったり明るく開放的な環境作りを心がけています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下至る所に花や季節のタペストリーを飾りレクリエーションの写真を掲示したりと明るく楽しい空間作りを心がけています。又、昔の遊び道具を飾り懐かしさや安心感を与える工夫をしています。日常使う食器や道具も日頃家で使う物を使用し戸惑いが無い様配慮しています。窓にはすべてレースのカーテンが有り直射日光を避ける様気をつけています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には数カ所ソファを置き自室にも各自ソファを置いてありますので利用者同士思い思い過ごせる様な工夫や支援を行っています。又、良く使用されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時安心して生活が送れる様馴染みのある道具は持ってきて頂く様話しています。数が多い時や大きい物は部屋の広さも考えて怪我の危険性にもなりかねないのでお断りする事も有ります。出来る限り要望には添える様配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除時と一定時間に数分間窓を開け空気の入れ換えを行っています。温度の設定は26度に設定してあり気温に応じてこまめに調節し過ごしやすく生活が出来る様支援しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態に応じて室内の家具を移動したり障害物を置かない様環境整備は良く行っています。又、室内廊下トイレ等至る所に手すりが設けてあり安全に移動が行える様にしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	戸惑われる場所には目印や矢印を掲示したり自室には表札や目印の花を飾ったりとスムーズに行動が出来る様工夫を行っています。 又、自室のダンスに衣類別に名前を貼る等し自力で衣類を選ぶ事が出来る様支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に応じて花を植えているので花瓶に飾る花と一緒に摘み出たり要望が有る時は何時でも一緒に出て楽しむ様支援を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・精神病院が併設しており日中、夜間と医師が在中していますので緊急時の対応が早い。
又、他の施設もあり色々な情報交換がおこなえる。
- ・院内の集合教育、感染対策、接遇研修に参加し介護力知識の向上に努めています。
又、委員会では医療安全委員会、業務改善委員会、運営委員会、外来委員会等に参加しさまざまな意見交換や情報収集等の交換に努めています。
- ・介護理念・介護方針が名札の裏、室内数箇所に掲示してあり毎日申し送り時に述べ念頭においてケアを行い自立を目的とした介護支援を心がけています。
- ・明るく開放的な環境作りを心がけ家庭的な雰囲気作りを行い穏やかで安心して生活が送れるよう支援しています。
- ・公共の施設が充実しており地域との交流も行える。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠々居
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市萩原町9-45
記入者名 (管理者)	木村 たづ子
記入日	平成20年 2月24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスの理念は出来ていないが現在までに1回目認知症の勉強会と入居者の生活の説明2回目餅つきを行いコミュニケーションを図っています。	○	地域密着サービスの理念は出来ていない。今後は地域の方々との関わりが入居者、施設、職員もふえてるので早急に立案し理念を共有化する事で地域の方々とのより良い関係を図っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、理念を唱和し理念の意識付けを行っている。職員の名札の裏、室内3ヶ所に理念を掲示しており常に理念に沿ったケアの浸透を図っています。スタッフの心構え「原則」も心構えの一つとなっております。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者、御家族、地域の方の目のつく所に理念を掲示し入居の際、運営推進連絡会議の際に説明を行っています。	○	理念の浸透までは至っていないので今後も運営推進連絡会議の、行事の際内容によっては説明を繰り返し行っていく様にする。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方達との挨拶は気を配り必ず行うようにしています。最近はお互い気軽に声かけをすることも多くなっておりいます。施設の外観も季節に応じた花を植え替え明るく開放的な家庭的な環境づくりを心がけています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や地域の行事等の参加は職員も同行し親交を深めている。二年前より近くの保育園より豆まき参加のご招待があり参加しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流の際や運営推進会議にて認知症や介護についての質問が必ずあります。その際には専門的な立場から説明や対応策を話すことがあります。	○	実際に一人暮らしで困っている高齢者や介護面で困っているご家族も地域の中には沢山おられると思います。地域の方との親交を通してその様な方々へ専門的な支援も行っていければと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者より評価を受けることは日常の介護に慣れを感じることなく、どの様にケアや環境整備を行えば入居者の方々が安心して穏やかに暮らせるか等を考える質の向上につながっていると励みになっているので外部評価の改善点の指摘には直ぐに取り組み改善しております。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流会において地域の皆様に関係することや利用者やサービスのことは十分に話しています。評価を行っているという説明はしていますが詳しい内容はこれからです。まだ数回しか行っておらず意見より質問のほうが多いです。	○	現在二回しか運営推進会議を行っておらず今後は二ヶ月に一回は必ず定期的に行いその中で評価への取り組みについても詳しく説明も行っていきます。徐々に意見も出てくると思いますのでその時は意見を生かしてサービスの向上に努めます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂く様お願いいたしております。年一回の実地指導にての意見改善点は質の向上につながっています。又、市が行います研修会には必ず参加するようにしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内での研修で専門の先生をお招きして勉強会を行っております。その際には出来る限り多数の職員が参加するよう努めています。	○	今後法令で改善点等の新しい情報を速やかに取り入れ入居者の関係者にお伝えしていくよう勉強していきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内や外部研修において虐待についての研修は多く有りますので多数参加し理解できるよう徹底しております。施設内でも各フロアで話し合い入居者の状況、状態にあった介護を行うよう共有化しております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の祭は契約書と重要事項説明書を読み上げ納得して契約を行って頂いております。又その祭に疑問点などをお尋ねし不安なく入居して頂く様心がけております。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の状態にて訴えがある場合は優先して話しを聞く様にして安心して生活が送れるよう対応しています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面接時にご家族へ状況や状態を説明するようにしています。又急ぎの場合は連絡を入れることもあります。都合にて来られないご家族へも定期的にイベントの案内をし半年に一度は計画書の説明を致しますのでそのとき詳しく話すようにしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>担当職員を明確にし何処でも対応するようにしています。意見箱の設置もありご利用していただけるよう説明しております。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度、運営会議業務改善委員会があり各部署にて意見を持ち寄り良い方向に改善するよう院内全体で努めています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態に応じて職員の勤務は何処でも変更できます。又、緊急な場合でも連絡網を設けておりますので速やかに対応できるようにしています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者への配慮として出来る限り職員の異動が無いよう経営者、管理者が考えています。又やむをえず異動や退職にて施設を離れる場合でも残っている職員が対応し明るい環境づくりに努めるよう支援しています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>院内でも新人研修、助手研修その他研修が月に2～3回有り日々勉強しています。又、院外の研修も出来る限り沢山の職員が受講できるようしています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>院内で別部署での同業者を招いた研修ではGHもさんかしています。又、熊本市のGH連絡会議に参加して色々な意見を交換して交流を図っていると同時に施設の見学に訪れたり来られたりすることもあります。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各フロアで意見交換や話し合いの機会を設けストレスの原因を作らないようにしています。又、何時でも管理者に相談できるような環境でもあります。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人評価表を基にして本人、管理者及び経営者の意見交換を行い問題点の改善等に努めスキルアップを図っています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や入居時、本人の生活歴、趣味、嗜好調査などを尋ね施設での生活環境をどの様に整えたら安心して生活が送れるかをスタッフ間で話し合います。又入居後慣れられるまでは声かけに気を配りコミュニケーションを図りながら本人が望んで事など引き出す努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や入居時、ご家族の不安や心配などをお聞きし専門的立場にて説明や助言を行い安心されるよう支援しています。又、面会時や連絡を行った際、施設での状況や状態を話すようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を聞き満床にて入居が出来ない場合など院内施設の小規模多機能や支援センターの相談員に相談し対応に努めています。	○	有料老人ホームが3月に開設するので今以上に院内の他施設のスタッフや専門員との協力体制を築いていかなければと思います。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は会話を心がけ明るい雰囲気や環境を提供し信頼関係を築く様支援します。他者と一緒に過ごす時も職員も介入しコミュニケーション作りも支援しています。慣れられるまでご家族へ頻りに面接していただくよう協力をお願いしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や活動を励ましながら一緒に行くことで自己重要感を高めお礼の言葉をいい労事で意欲の向上を図っています。又、入居者の方から優しい言葉を頂くことも多く過剰な介護をせず出来ないところを支援し助け合って生活を営んでいると思います。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や心配事をお聞きし話しをすることで不安が軽減するよう支援しています。両親の状態や状況などを説明し対応に困ることの無いよう支援しています。時折活動や推進会議に参加して頂き一緒にコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には現状を説明し介護に戸惑いが無いよう支援しています。面会が少ないご家族への季節のセレモニーの連絡の祭は安心されるよう生活状況などを話すよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数人地元で生活を営まれた方は老人会の方が尋ねてこられたり老人会に入会し活動へも時折参加しているので徐々に他の入居者の方たちとも馴染みの関係が築けていると思います。	○	地元以外の方で馴染みの方が訪ねてこられることは殆ど無い。今後ご家族とも相談し支援の方法を考えていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員が参加できる活動を取り入れたり皆で会話をしたりと職員が介入し楽しい環境を作ることで孤立せずコミュニケーションが図れるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同施設間で転院されても必要であれば関わっていきたいと思います。又、転院される際も何時でも相談や遊びに来てくださいと話しています。	○	転院後私達も入居者や御家族の状況等心配です。今後はお手紙や連絡を取り関係を断ち切らない関係作りを検討する必要があると思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や状態を通して本人の希望、意向を把握するよう努め、その後職員でミーティングを行い、どの様に対処を行うと本人が満足し穏やかに生活が送れるか何時も念頭に置いています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時すべて尋ね又、情報提供書を読み把握に努めています。直ぐに職員全員印でミーティングを行い支援の方法等を考えその事を共有しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動や家事を一緒に行いコミュニケーションを図りながら状態を観察し現状を把握する様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立案する際、職員全員でケアカンファレンスを行い生活環境、住環境支援の仕方等について徹底して話し合います。御家族へは面会時や連絡を入れる等しケアに対する意向を尋ねています。	○	御家族とスケジュールの調整を計りケアカンファレンスから参加して頂ける様にする。又、他の専門職の意見を聞き、より良いケアが行える様に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態や状況が変化し異常があった場合は介護計画の見直しを御家族に話し新たに作成する様努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報、ホーム日誌に記入し介護計画の作成に活かしています。又、職員は必ず目を通し情報は共有化できています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調に異常があった場合は昼夜問わず母体の医師や看護師に連絡をし早急に対処出来る連携体制です。介護保険や手続きに関しても他職に相談できる環境です。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中での資源の協力体制は十分とは言えない入居者の生活環境を整え安心して地域の中で生活を行える様支援する。	○	今後、運営推進会議やセレモニー等に他職の地域の方をお招きし馴染みの関係を築き良い環境作りに協力して頂ける様働きかける。又、ボランティアの支援も健闘していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設内に在宅支援センターが有り、常に情報交換を行っている。又、市のグループホーム協議会へ入会し定期的に話し合いや講習会があり参加しここでも色々な情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向は状態から言って理解するのは難しい。必要性の点では、家族歴や生活歴にて計り知ることが出来るので十分とは言えないが話し合っている。	○	現在、院内研修で権利擁護についての研修を数回行い今後重要な事だと理解をしています。今後は地域包括支援センターとより連携を計り長期的なケアマネジメントについて話し合っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他科受診は御家族にご協力を頂いていますが場合によっては職員が同行し受診を行っています。歯の治療は来居にて行って頂く等、本人や御家族が安心し納得がいく様出来る限り意向に添っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>入居者の方が高齢化し身体面も重度化が進んでいます。今後は御家族と時折面談を行って終末期をどのような方向で迎えたいか医師を交えて繰り返し話し合いを行っていく必要性が有ると思います。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>身体面で環境面、不具合を提示し入居者が暮らしやすい環境に改善していく努力をする。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方の性格を把握し場所をわきまえた対応を心がけています。記録などに記入する際も個人情報に配慮し「他者」と記入しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方のペースにあわせ、ゆっくりと落ち着いた態度で理解しやすい言葉を選び返答を促す様支援を行っている。又、表情や声のトーンにも気をつけています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が話しかけてきたり状況や状態を見極め第一に入居者の方たちを優先し考え行動する様共有化しています。一人一人のペースを把握し本人の意見を尊重し穏やかに生活が送れる様支援を行っています。	○ 新人の職員に介護理念や方針を十分に理解をしケアを行っていく様教育に努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば行きつけの美容院に行き希望の髪型にして頂いている。着る物は自分で選んで頂き毎朝整髪を行い、お化粧する事を促す等女性としての気持ちを尊重する様努めています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い物、準備後片づけなど一緒に行い励ましや労いの言葉掛けを行い自己重要感を満たす様心がけています。食事の中で好みを把握し献立の中に入れる様努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時嗜好調査を本人、御家族に行い調査票を活かして提供する様努め楽しく生活を送れる様支援を行っています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時の声掛けと誘導解除を行い入居者の方の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促しています。又、日中は布パンツに替え自力で排泄を行う行為を保てる様見守りや励ましにて意欲の向上を図っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴曜日時間は決まっているが本人の希望があれば毎日入浴が出来る。又、一人の入浴でゆっくりとリラックスして入浴を楽しむことが出来る。排泄にて汚れた時なども季節や希望によっては入浴を行う事が多々あります。	○	入浴の時間の希望には個人一人一人に合わせる事が難しいが出来れば希望にそえるよう支援が出来るのかを話し合っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の方の状況や状態を観察し必要に応じて休息をとる様声掛けを行っている。日中に活動や家事、雑談をするなどし夜穏やかに入眠出来る様支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の趣味出来ることを把握し協力して頂ける時は力を発揮して頂いている。季節に応じて行事や外出を施行し誕生日に誕生会を行い職員が楽しい雰囲気作りや明るい飾り付けを行い全員でカラオケや歌や踊りをしたりと楽しいセレモニーを提供しています。	○	行事やレクリエーションには御家族へ連絡を入れ参加をお願いしますが、参加者が少ないのが現状です。入居者の方の日常生活を把握して頂く為と喜びや楽しみに協力して頂ける様参加を呼びかけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理は難しくお金の価値の理解も乏しい(しまい込み、忘れてたりお金を持っていたことを忘れてたりされる又、他者にあげたりと危険な面があったため)	○	活動時お金の価値をみせて尋ねることが有るが解られないが興味もないが買い物時払って頂くなどし続けていこうと思う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数に限られており季節に応じて運動場や近くへ連れて行くのは可能だが都外となると入居者の方の身体も重度化しており残った職員への負担も大きいのでご協力して頂ける御家族へはお願いしています。	○	日常的となると難しいが全体で協力する体制や地域の方ボランティアの方の協力を検討する必要性が有ると思われる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて全体の職員が協力して外出したり地域のセレモニーに各階数名ずつ外出を行ったりはできるが個別や家族と共にその階だけの職員が抜けるのはNo61の理由も重なり難しい。	○	個別や家族と共に行える支援もNo61の内容も取り入れて話し合っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」「手紙を出したい」等を希望される場合は何時でも対応しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族、知人、友人、馴染みの人達の訪問は何時でも歓迎しておりゆっくと対話していただけるよう入居者の方達の部屋にはソファを置いており、お茶、お茶菓子等を出す様になっています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内の研修や院外の研修には積極的に参加し身体拘束をしないケアの実践は職員全員の意識図家は徹底しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかけないケアを実践したいが入居者の方の状態によって危険性があると判断した場合はやむをえず時間を決め対応にて平穏を取り戻すまで施錠を行うことがあります。その事は御家族にも説明し了解を得ています。	○	ボランティアの協力、各階の協力をの仕方を検討し人員を確保し施錠を行わず対応できる様努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	朝夕の申し送りにて入居者の方の状況や状態を把握し見守りや観察を行っています。夜間は2時間毎巡視に廻り安全に生活が送れる様支援をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時に持ってこられ状態の変化にて危険と判断した時はまず本人と話して預かる様にしています。又、状態が戻り手元に戻すこともあります。その事は御家族へ説明を行い又、御家族へ預けることもあります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療安全に関しての院内、院外の勉強への参加や医療安全委員会があり知識の向上には取り組んでいます。離居時の対応マニュアルや緊急連絡網が作ってあります。防災訓練は春と秋年2回行います。事故防止迅速な対応がとれるよう努めています。又個人日報には本人の顔写真を張っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の訓練が勉強会の中に入っており全員が順番に参加しています。母体の医師に緊急時は連絡を入れ指示を仰ぎ迅速に対応出来ます。緊急対応マニュアル緊急連絡網を作成しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応は大切なことだと認識はしていますが地域の方達との交流が始まったばかりで働きかけはまだ出来ていません。	○	運営推進会議の中で災害対策、対応、協力体制を議題に取り入れ意見、提案を出して頂きマニュアル化していきたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の方の状態は常にスタッフ間で話し合い状態に応じての環境整備対応を行う等し安全に生活出来る様創意工夫を行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常や入浴時にチェックし毎日定時にバイタルチェックを行い顔色動作の異常が無いかを観察し個人日報、ホーム日誌に記録し速やかに医師に報告し指示を仰ぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報提供書が個人日報に綴じてあり何時でも確認出来る。服薬は職員が管理し自力で服用出来る方は手渡し服用後まで見守る。出来ない方は介助し錠剤を粉にして服用を行う事も有る。医師の指示通りに服薬を行いその後十分に観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日課に体操を取り入れ出来る家事を手伝って頂き体を動かす様支援しています。食事に繊維物を多く取り入れ水分摂取に注意し自然排便が行える様努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きは声かけ、誘導、介助にて行っている。歯磨き後は磨き残しがある方1名、歯間ブラシ介助をしています。就寝時入れ歯、部分入れ歯の洗浄を行い殺菌予防をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者自身が食事の管理をする事は難しく体重が増加しない様職員側で食事量の調節を行っています。水分は自ら喉の渇きを訴える事がないのでお茶の時間を決め水分摂取を行う様に支援しています。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>母体の感染対策委員会が月一回有り出席し各階の状況状態を報告勉強会でも感染については多く必ず参加し知識の向上に努めています。予防法についての指導書を掲示し感染マニュアルが有ります。感染が流行する以外でも日々殺菌、消毒を行い予防に努めています。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>一日の食材はその日に買い新鮮さを大事にしています。食中毒の予防は夜勤者が毎晩まな板、ふきん、湯飲み、ハブラシ、コップ等を次亜塩素酸と熱湯にて殺菌、消毒を行っています。食器類も食器乾燥機で長時間乾燥を行います。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>表の門扉は何時も開放してあります。玄関周り、花壇は季節に応じて花を植えたり飾ったり明るく開放的な環境作りを心がけています。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や廊下至る所に花や季節のタペストリーを飾りレクリエーションの写真を掲示したりと明るく楽しい空間作りを心がけています。又、昔の遊び道具を飾り懐かしさや安心感を与える工夫をしています。日常使う食器や道具も日頃家で使う物を使用し戸惑いが無い様配慮しています。窓にはすべてレースのカーテンが有り直射日光を避ける様気をつけています。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下には数カ所ソファを置き自室にも各自ソファを置いてありますので利用者同士思い思い過ごせる様な工夫や支援を行っています。又、良く使用されています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時安心して生活が送れる様馴染みのある道具は持ってきて頂く様話しています。数が多い時や大きい物は部屋の広さも考えて怪我の危険性にもなりかねないのでお断りする事も有ります。出来る限り要望には添える様配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除時と一定時間に数分間窓を開け空気の入換えを行っています。温度の設定は26度に設定してあり気温に応じてこまめに調節し過ごしやすく生活が出来る様支援しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態に応じて室内の家具を移動したり障害物を置かない様環境整備は良く行っています。又、室内廊下トイレ等至る所に手すりが設けてあり安全に移動が行える様にしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	戸惑われる場所には目印や矢印を掲示したり自室には表札や目印の花を飾ったりとスムーズに行動が出来る様工夫を行っています。 又、自室のダンスに衣類別に名前を貼る等し自力で衣類を選ぶ事が出来る様支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に応じて花を植えているので花瓶に飾る花を一緒に摘み出たり要望が有る時は何時でも一緒に出て楽しむ様支援を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・精神病院が併設しており日中、夜間と医師が在中していますので緊急時の対応が早い。
又、他の施設もあり色々な情報交換がおこなえる。
- ・院内の集合教育、感染対策、接遇研修に参加し介護力知識の向上に努めています。
又、委員会では医療安全委員会、業務改善委員会、運営委員会、外来委員会等に参加しさまざまな意見交換や情報収集等の交換に努めています。
- ・介護理念・介護方針が名札の裏、室内数箇所に掲示してあり毎日申し送り時に述べ念頭においてケアを行い自立を目的とした介護支援を心がけています。
- ・明るく開放的な環境作りを心がけ家庭的な雰囲気作りを行い穏やかで安心して生活が送れるよう支援しています。
- ・公共の施設が充実しており地域との交流も行える。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠々居
(ユニット名)	3F
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市萩原町9-45
記入者名 (管理者)	瑞泉 秀子
記入日	平成20年 2月24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスの理念は出来ていないが現在までに1回目認知症の勉強会と入居者の生活の説明2回目餅つきを行いコミュニケーションを図っています。	○	地域密着サービスの理念は出来ていない。今後は地域の方々との関わりが入居者、施設、職員もふえてるので早急に立案し理念を共有化する事で地域の方々とのより良い関係を図っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、理念を唱和し理念の意識付けを行っている。職員の名札の裏、室内3ヶ所に理念を掲示しており常に理念に沿ったケアの浸透を図っています。スタッフの心構え「原則」も心構えの一つとなっております。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者、御家族、地域の方の目のつく所に理念を掲示し入居の際、運営推進連絡会議の際に説明を行っています。	○	理念の浸透までは至っていないので今後も運営推進連絡会議の、行事の際内容によっては説明を繰り返し行っていく様にする。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方達との挨拶は気を配り必ず行うようにしています。最近はお互い気軽に声かけをすることも多くなっておりいます。施設の外観も季節に応じた花を植え替え明るく開放的な家庭的な環境づくりを心がけています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や地域の行事等の参加は職員も同行し親交を深めている。二年前より近くの保育園より豆まき参加のご招待があり参加しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流の際や運営推進会議にて認知症や介護についての質問が必ずあります。その際には専門的な立場から説明や対応策を話すことがあります。	○	実際に一人暮らしで困っている高齢者や介護面で困っているご家族も地域の中には沢山おられると思います。地域の方との親交を通してその様な方々へ専門的な支援も行っていければと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者より評価を受けることは日常の介護に慣れを感じることなく、どの様にケアや環境整備を行えば入居者の方々が安心して穏やかに暮らせるか等を考える質の向上につながっていると励みになっているので外部評価の改善点の指摘には直ぐに取り組み改善しております。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流会において地域の皆様に関係することや利用者やサービスのことは十分に話しています。評価を行っているという説明はしていますが詳しい内容はこれからです。まだ数回しか行っておらず意見より質問のほうが多いです。	○	現在二回しか運営推進会議を行っておらず今後は二ヶ月に一回は必ず定期的に行いその中で評価への取り組みについても詳しく説明も行っていきます。徐々に意見も出てくると思いますのでその時は意見を生かしてサービスの向上に努めます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂く様お願いいたしております。年一回の実地指導にての意見改善点は質の向上につながっています。又、市が行います研修会には必ず参加するようにしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内での研修で専門の先生をお招きして勉強会を行っております。その際には出来る限り多数の職員が参加するよう努めています。	○	今後法令で改善点等の新しい情報を速やかに取り入れ入居者の関係者にお伝えしていくよう勉強していきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内や外部研修において虐待についての研修は多く有りますので多数参加し理解できるよう徹底しております。施設内でも各フロアで話し合い入居者の状況、状態にあった介護を行うよう共有化しております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>院内でも新人研修、助手研修その他研修が月に2～3回有り日々勉強しています。又、院外の研修も出来る限り沢山の職員が受講できるようしています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>院内で別部署での同業者を招いた研修ではGHもさんかしています。又、熊本市のGH連絡会議に参加して色々な意見を交換して交流を図っていると同時に施設の見学に訪れたり来られたりすることもあります。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各フロアで意見交換や話し合いの機会を設けストレスの原因を作らないようにしています。又、何時でも管理者に相談できるような環境でもあります。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人評価表を基にして本人、管理者及び経営者の意見交換を行い問題点の改善等に努めスキルアップを図っています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や入居時、本人の生活歴、趣味、嗜好調査などを尋ね施設での生活環境をどの様に整えたら安心して生活が送れるかをスタッフ間で話し合います。又入居後慣れられるまでは声かけに気を配りコミュニケーションを図りながら本人が望んで事など引き出す努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や入居時、ご家族の不安や心配などをお聞きし専門的立場にて説明や助言を行い安心されるよう支援しています。又、面会時や連絡を行った際、施設での状況や状態を話すようにしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を聞き満床にて入居が出来ない場合など院内施設の小規模多機能や支援センターの相談員に相談し対応に努めています。	○	有料老人ホームが3月に開設するので今以上に院内の他施設のスタッフや専門員との協力体制を築いていかなければと思います。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は会話を心がけ明るい雰囲気や環境を提供し信頼関係を築く様支援します。他者と一緒に過ごす時も職員も介入しコミュニケーション作りも支援しています。慣れられるまでご家族へ頻りに面接していただくよう協力をお願いしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や活動を励ましながら一緒に行くことで自己重要感を高めお礼の言葉をいい労事で意欲の向上を図っています。又、入居者の方から優しい言葉を頂くことも多く過剰な介護をせず出来ないところを支援し助け合って生活を営んでいると思います。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や心配事をお聞きし話しをすることで不安が軽減するよう支援しています。両親の状態や状況などを説明し対応に困ることの無いよう支援しています。時折活動や推進会議に参加して頂き一緒にコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には現状を説明し介護に戸惑いが無いよう支援しています。面会が少ないご家族への季節のセレモニーの連絡の祭は安心されるよう生活状況などを話すよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数人地元で生活を営まれた方は老人会の方が尋ねてこられたり老人会に入会し活動へも時折参加しているので徐々に他の入居者の方たちとも馴染みの関係が築けていると思います。	○	地元以外の方で馴染みの方が訪ねてこられることは殆ど無い。今後ご家族とも相談し支援の方法を考えていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員が参加できる活動を取り入れたり皆で会話をしたりと職員が介入し楽しい環境を作ることで孤立せずコミュニケーションが図れるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同施設間で転院されても必要であれば関わっていきたいと思います。又、転院される際も何時でも相談や遊びに来てくださいと話しています。	○	転院後私達も入居者や御家族の状況等心配です。今後はお手紙や連絡を取り関係を断ち切らない関係作りを検討する必要があると思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や状態を通して本人の希望、意向を把握するよう努め、その後職員でミーティングを行い、どの様に対処を行うと本人が満足し穏やかに生活が送れるか何時も念頭に置いています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時すべて尋ね又、情報提供書を読み把握に努めています。直ぐに職員全員印でミーティングを行い支援の方法等を考えその事を共有しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動や家事を一緒に行いコミュニケーションを図りながら状態を観察し現状を把握する様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立案する際、職員全員でケアカンファレンスを行い生活環境、住環境支援の仕方等について徹底して話し合います。御家族へは面会時や連絡を入れる等しケアに対する意向を尋ねています。	○	御家族とスケジュールの調整を計りケアカンファレンスから参加して頂ける様にする。又、他の専門職の意見を聞き、より良いケアが行える様に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態や状況が変化し異常があった場合は介護計画の見直しを御家族に話し新たに作成する様努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報、ホーム日誌に記入し介護計画の作成に活かしています。又、職員は必ず目を通し情報は共有化できています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調に異常があった場合は昼夜問わず母体の医師や看護師に連絡をし早急に対処出来る連携体制です。介護保険や手続きに関しても他職に相談できる環境です。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中での資源の協力体制は十分とは言えない入居者の生活環境を整え安心して地域の中で生活を行える様支援する。	○	今後、運営推進会議やセレモニー等に他職の地域の方をお招きし馴染みの関係を築き良い環境作りに協力して頂ける様働きかける。又、ボランティアの支援も健闘していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設内に在宅支援センターが有り、常に情報交換を行っている。又、市のグループホーム協議会へ入会し定期的に話し合いや講習会があり参加しここでも色々な情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向は状態から言って理解するのは難しい。必要性の点では、家族歴や生活歴にて計り知ることが出来るので十分とは言えないが話し合っている。	○	現在、院内研修で権利擁護についての研修を数回行い今後重要な事だと理解をしています。今後は地域包括支援センターとより連携を計り長期的なケアマネジメントについて話し合っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他科受診は御家族にご協力を頂いていますが場合によっては職員が同行し受診を行っています。歯の治療は来居にて行って頂く等、本人や御家族が安心し納得がいく様出来る限り意向に添っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>入居者の方が高齢化し身体面も重度化が進んでいます。今後は御家族と時折面談を行って終末期をどのような方向で迎えたいか医師を交えて繰り返し話し合いを行っていく必要性が有ると思います。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>身体面で環境面、不具合を提示し入居者が暮らしやすい環境に改善していく努力をする。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方の性格を把握し場所をわきまえた対応を心がけています。記録などに記入する際も個人情報に配慮し「他者」と記入しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方のペースにあわせ、ゆっくりと落ち着いた態度で理解しやすい言葉を選び返答を促す様支援を行っている。又、表情や声のトーンにも気をつけています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が話しかけてきたり状況や状態を見極め第一に入居者の方たちを優先し考え行動する様共有化しています。一人一人のペースを把握し本人の意見を尊重し穏やかに生活が送れる様支援を行っています。	○ 新人の職員に介護理念や方針を十分に理解をしケアを行っていく様教育に努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば行きつけの美容院に行き希望の髪型にして頂いている。着る物は自分で選んで頂き毎朝整髪を行い、お化粧する事を促す等女性としての気持ちを尊重する様努めています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い物、準備後片づけなど一緒に行い励ましや労いの言葉掛けを行い自己重要感を満たす様心がけています。食事の中で好みを把握し献立の中に入れる様努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時嗜好調査を本人、御家族に行い調査票を活かして提供する様努め楽しく生活を送れる様支援を行っています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時の声掛けと誘導解除を行い入居者の方の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促しています。又、日中は布パンツに替え自力で排泄を行う行為を保てる様見守りや励ましにて意欲の向上を図っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴曜日時間は決まっているが本人の希望があれば毎日入浴が出来る。又、一人の入浴でゆっくりとリラックスして入浴を楽しむことが出来る。排泄にて汚れた時なども季節や希望によっては入浴を行う事が多々あります。	○	入浴の時間の希望には個人一人一人に合わせる事が難しいが出来れば希望にそえるよう支援が出来るのかを話し合っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の方の状況や状態を観察し必要に応じて休息をとる様声掛けを行っている。日中に活動や家事、雑談をするなどし夜穏やかに入眠出来る様支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の趣味出来ることを把握し協力して頂ける時は力を発揮して頂いている。季節に応じて行事や外出を施行し誕生日に誕生会を行い職員が楽しい雰囲気作りや明るい飾り付けを行い全員でカラオケや歌や踊りをしたりと楽しいセレモニーを提供しています。	○	行事やレクリエーションには御家族へ連絡を入れ参加をお願いしますが、参加者が少ないのが現状です。入居者の方の日常生活を把握して頂く為と喜びや楽しみに協力して頂ける様参加を呼びかけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理は難しくお金の価値の理解も乏しい(しまい込み、忘れてたりお金を持っていたことを忘れてたりされる又、他者にあげたりと危険な面があったため)	○	活動時お金の価値をみせて尋ねることが有るが解られないが興味もないが買い物時払って頂くなどし続けていこうと思う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数に限られており季節に応じて運動場や近くへ連れて行くのは可能だが都外となると入居者の方の身体も重度化しており残った職員への負担も大きいのでご協力して頂ける御家族へはお願いしています。	○	日常的となると難しいが全体で協力する体制や地域の方ボランティアの方の協力を検討する必要性が有ると思われる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて全体の職員が協力して外出したり地域のセレモニーに各階数名ずつ外出を行ったりはできるが個別や家族と共にその階だけの職員が抜けるのはNo61の理由も重なり難しい。	○	個別や家族と共に行える支援もNo61の内容も取り入れて話し合っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」「手紙を出したい」等を希望される場合は何時でも対応しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族、知人、友人、馴染みの人達の訪問は何時でも歓迎しておりゆっくと対話していただけるよう入居者の方達の部屋にはソファを置いており、お茶、お茶菓子等を出す様にしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内の研修や院外の研修には積極的に参加し身体拘束をしないケアの実践は職員全員の意識図家は徹底しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかけないケアを実践したいが入居者の方の状態によって危険性があると判断した場合はやむをえず時間を決め対応にて平穏を取り戻すまで施錠を行うことがあります。その事は御家族にも説明し了解を得ています。	○	ボランティアの協力、各階の協力をの仕方を検討し人員を確保し施錠を行わず対応できる様努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	朝夕の申し送りにて入居者の方の状況や状態を把握し見守りや観察を行っています。夜間は2時間毎巡視に廻り安全に生活が送れる様支援をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時に持ってこられ状態の変化にて危険と判断した時はまず本人と話して預かる様にしています。又、状態が戻り手元に戻すこともあります。その事は御家族へ説明を行い又、御家族へ預けることもあります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療安全に関しての院内、院外の勉強への参加や医療安全委員会があり知識の向上には取り組んでいます。離居時の対応マニュアルや緊急連絡網が作ってあります。防災訓練は春と秋年2回行います。事故防止迅速な対応がとれるよう努めています。又個人日報には本人の顔写真を張っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の訓練が勉強会の中に入っており全員が順番に参加しています。母体の医師に緊急時は連絡を入れ指示を仰ぎ迅速に対応出来ます。緊急対応マニュアル緊急連絡網を作成しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応は大切なことだと認識はしていますが地域の方達との交流が始まったばかりで働きかけはまだ出来ていません。	○	運営推進会議の中で災害対策、対応、協力体制を議題に取り入れ意見、提案を出して頂きマニュアル化していきたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の方の状態は常にスタッフ間で話し合い状態に応じての環境整備対応を行う等し安全に生活出来る様創意工夫を行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常や入浴時にチェックし毎日定時にバイタルチェックを行い顔色動作の異常が無いかを観察し個人日報、ホーム日誌に記録し速やかに医師に報告し指示を仰ぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報提供書が個人日報に綴じてあり何時でも確認出来る。服薬は職員が管理し自力で服用出来る方は手渡し服用後まで見守る。出来ない方は介助し錠剤を粉にして服用を行う事も有る。医師の指示通りに服薬を行いその後十分に観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日課に体操を取り入れ出来る家事を手伝って頂き体を動かす様支援しています。食事に繊維物を多く取り入れ水分摂取に注意し自然排便が行える様努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きは声かけ、誘導、介助にて行っています。歯磨きが上手く行えているか磨き残しは無いか見守りチェックを行う。就寝時は入れ歯の洗浄を行い口臭予防を行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者自身が食事の管理をする事は難しく体重が増加しない様職員側で食事量の調節を行っています。水分は自ら喉の渇きを訴える事がないのでお茶の時間を決め水分摂取を行う様に支援しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体の感染対策委員会が月一回有り出席し各階の状況状態を報告勉強会でも感染については多く必ず参加し知識の向上に努めています。予防法についての指導書を掲示し感染マニュアルが有ります。感染が流行する以外でも日々殺菌、消毒を行い予防に努めています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日の食材はその日に買い新鮮さを大事にしています。食中毒の予防は夜勤者が毎晩まな板、ふきん、湯飲み、ハブラシ、コップ等を次亜塩素酸と熱湯にて殺菌、消毒を行っています。食器類も食器乾燥機で長時間乾燥を行います。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表の門扉は何時も開放してあります。玄関周り、花壇は季節に応じて花を植えたり飾ったり明るく開放的な環境作りを心がけています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下至る所に花や季節のタペストリーを飾りレクリエーションの写真を掲示したりと明るく楽しい空間作りを心がけています。又、昔の遊び道具を飾り懐かしさや安心感を与える工夫をしています。日常使う食器や道具も日頃家で使う物を使用し戸惑いが無い様配慮しています。窓にはすべてレースのカーテンが有り直射日光を避ける様気をつけています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には数カ所ソファを置き自室にも各自ソファを置いてありますので利用者同士思い思い過ごせる様な工夫や支援を行っています。又、良く使用されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時安心して生活が送れる様馴染みのある道具は持ってきて頂く様話しています。数が多い時や大きい物は部屋の広さも考えて怪我の危険性にもなりかねないのでお断りする事も有ります。出来る限り要望には添える様配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除時と一定時間に数分間窓を開け空気の入れ換えを行っています。温度の設定は26度に設定してあり気温に応じてこまめに調節し過ごしやすく生活が出来る様支援しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態に応じて室内の家具を移動したり障害物を置かない様環境整備は良く行っています。又、室内廊下トイレ等至る所に手すりが設けてあり安全に移動が行える様にしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	戸惑われる場所には目印や矢印を掲示したり自室には表札や目印の花を飾ったりとスムーズに行動が出来る様工夫を行っています。 又、自室のダンスに衣類別に名前を貼る等し自力で衣類を選ぶ事が出来る様支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に応じて花を植えているので花瓶に飾る花を一緒に摘み出たり要望が有る時は何時でも一緒に出て楽しむ様支援を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・精神病院が併設しており日中、夜間と医師が在中していますので緊急時の対応が早い。
又、他の施設もあり色々な情報交換がおこなえる。
- ・院内の集合教育、感染対策、接遇研修に参加し介護力知識の向上に努めています。
又、委員会では医療安全委員会、業務改善委員会、運営委員会、外来委員会等に参加しさまざまな意見交換や情報収集等の交換に努めています。
- ・介護理念・介護方針が名札の裏、室内数箇所に掲示してあり毎日申し送り時に述べ念頭においてケアを行い自立を目的とした介護支援を心がけています。
- ・明るく開放的な環境作りを心がけ家庭的な雰囲気作りを行い穏やかで安心して生活が送れるよう支援しています。
- ・公共の施設が充実しており地域との交流も行える。